

学校(所属)名	職名	氏名	年齢	公募校長としての着任年月日
北海道松前高等学校	校長	濱名 一博	59	令和3年4月1日

1 これまで取り組んできた改革

5年間の
目標

◎地元の子供を地元で育成する、より魅力ある松前高校の実現
◎今後5年間、町内中学卒業者の70%以上が入学する学校とする

(1) 令和3年度までに行ったこと

- ①スクールミッション、スクールポリシーの策定、経営シラバスの改定
- ②教職員のベクトルをそろえ、教育活動の充実(三本柱=書道・松前学・国際理解)
- ③学校運営協議会の発足、町内企業や関係機関との連携を進める
- ④本校のPR活動(町広報にコラム、学校説明会、小中学校へ赴き説明、マスコミ利用)
- ⑤働き方改革を進める(コアチーム発足、会議の改革、行事精選、変形労働時間制利用等)

(2) 令和3年度の成果と課題

- ①策定作業の中で本校の現状分析、観点別評価や授業改善等が進んだ。
- ②教職員がチームワーク良く業務に取り組み、関係機関も大変好意的=「チーム松高」的組織形成
- ③令和4年度、20名が入学(町内中卒者31名=65%が入学)
- ④課題
 - ・より一層の魅力ある学校づくりとPR、働き方改革を両立させて進める
 - ・町内の中学校の不登校対策(今年度3名が有朋高校・本校は協力校)

2 進捗状況及び成果

(1) 令和4年度の重点目標

すべての教育活動の充実、内外への積極的なPR活動、入学生徒の確保(町内生70%)

(2) 進捗状況

- ①学校の更なる魅力化のため、教職員の研修=教師力・授業力アップ、信頼される学校づくり
 - 学校嫌い、勉強嫌いを作らない授業展開の工夫、学習意欲を喚起する評価方法の研究
 - 教職員が元気に明るく業務を行う(学校行事は生徒とともに楽しむ、地域行事への参加)
 - 小中学校にも声をかけた授業研究会→高校指導班の協力、内外の研修に教員が積極的に参加
- ②地域の教育資源の活用
 - 三本柱(松前学・書道教育・国際理解教育)を中心に地域と連携したキャリア教育の展開
 - 「松前学」の授業で、地域のさまざまな分野の方に講師依頼=地域関係者の協力
 - 地域振興への高校生の協力
 - =町議会の協力、地域振興策の提案・発表(松前学)、
 - =コロナ流行鈍化による生活の平常化→祭典への参加、役場・観光協会・警察等とのコラボ
- ③生徒の「内発性」を喚起する=やる気を引き出し、フタを取るための仕掛け
 - 「元気な大人」による講演会、「カタリバ」の実施(2年生 来年度から全校で実施)、
 - 様々なことに挑戦させる=各種検定資格、コンクール、地域の体育系大会等への積極参加
 - =教職員自身も常に努力し、挑戦する姿勢を見せる
 - スタディサプリの有効活用、習熟度別講習(Tベース等の利用)参加者の増加
 - 進学対策チームの発足(さらなる進学指導の教科)
- ④他校種との連携=小中学校と連携したキャリア教育の実践研究
 - 町内小中高キャリアパスポート研究会の実施(4回)キャリアパスポートの様式統一研究
- ⑤本校の教育活動を積極的にPR=町広報、HP、配信メール、マスコミ、学校説明会等
 - 学校説明会(中2向け、中3向け)=中3向けを1時間でのリクエスト→工夫して実施
 - 部活動体験会、中学校教員向け説明会、中学校保護者向け説明会、小6への説明会
 - フランス派遣研修再開(生徒5名、教員1名、校長が参加)=報告会の実施
- ⑥働き方改革を進める=更なる改善策(生活の平常化による業務の増加に対応)
 - 変形労働時間制の積極利用、事務職員による業務補助、コアチーム活用、アンケート実施等

(3) 成果と課題

〈成果〉元気な教員・積極的な在校生(高い部活動加入率96%、皆勤率69%)
 学校全体に前向きで明るい雰囲気広がっている実感 若手教員を中心にICT活用進展
 松前町の支援追加(来年度より給食の無償提供・入学支度金)

〈課題〉小中学校教員の「キャリア教育」に対する意識の向上
 ・町内中学校(管理職)の協力、松前高校への中学生や保護者の関心

(4) 現在までの本校入学希望者 町内中学3年生26名中

6月調査 10名 38% 9月調査 9名 34% 男子の希望者しかいない
 3月受検 13名 50% 女子3名 不登校傾向6名 後半のPR活動の成果か。
 2次募集1名受検(女子) **14名入学予定 54%**

3 課題及び解決に向けた方策、今後の取り組み予定

(1) 目標は引き続き「町内中学卒業生の70%の入学」

- ①より一層の教育活動の充実→魅力ある学校づくりをさらに進める 企業・役場との一層コラボ
 - ②町内小中学校との協働→特に中学校の不登校対策やキャリア教育推進
 - 学校説明会のさらなる工夫改善、T-baseを主に進学希望者へのアピールに重点
 - 中学校、小学校教員の意識改革のため、直接個々の教員と繋がりを持つ(公式非公式)
 - ③希望者減の原因調査アンケート→本校学校運営協議会、町教委、町内会組織に協力願って実施
- (2) 働き方改革のさらなる具体化(部活動での地域連携、日常業務のさらなる効率化スリム化等)
- (3) 5年後、10年後に向けての対応策の検討→町外の募集や全国募集も視野に入れ検討するが、まずは地元の子を地元で育てる路線の充実を図りたい